プロスポーツ

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

日本選手権競輪　号外版

竹内 記者

森田 優弥

山田 英明

ダービー初出場、まだビッグの舞台で実績を残せていない森田優弥だが、進境を見せている。昨年は1回だったが、今年はすでに3度の優勝。1月の大宮、4月の西武園と2度の地元記念で連係した平原康多も「レースセンスがあるし、自分と仕掛けるポイントとか感性が似ているところがある」と、森田には全権を委任している。やすやすと後手には回らない立ち回りが、シビアなG1での戦いに必ずや生きてくる。準決、決勝での平原とのタッグを実現させたい。

昨年も最後までグランプリ出場争いを演じたが、そのキップを逃した山田英明が、「このままでは終われない」という強い思いで大一番に臨む。弟の庸平に前を託した直前の地元、武雄記念決勝。優勝に結実させることができず、めずらしく悔しさをあらわにした。しかしながら、「やっと雲があけてきた。修正もできたんで、このあとにつなげたい」と、手応えのあるシリーズだったことを強調。年の後半に持ち越すことなく、ここでグランプリを決めたい。

音無 記者

神田 紘輔

山口 泰生

神田紘輔の動きがいい。2月大垣から松浦悠士の仕様に似せたフレームに換えると、全日本選抜では「脚は良かったけど、展開ですね。けっこう今までのG1のなかでは余裕を持って走れた。強くなったなと思う」と着以上の手ごたえを得ていた。その後も3月玉野記念in広島で3度の確定板にあがり、岐阜、川崎を連覇と乗れている。自転車を換えて「かなり動きが変わったし、かみ合ってくれてる」という言葉どおりの活躍だ。これまでG1ではなかなか勝ち上がりで結果を残せていないが、今回は期待できそう。

もうひとり注目したいのは山口泰生だ。今回が5年10カ月ぶりのG1参戦。ダービーに出場するのは初めてだ。練習内容を見直して、8月松阪、10月和歌山で優勝するなど、昨年後期は一気にブレイクした。12月佐世保記念、2月松阪の落車もあって、その勢いにかげりは見られるものの、立て直しはきているはずだ。長所の地脚がG1のスピードレースでどこまで通用するか。

笠原 記者

山下 一輝

皿屋 豊

山下一輝は12年7月寛仁親王牌以来、9年ぶり2度目のG1出場だ。追い込み選手として着実にランクを上げている。今年は1月に落車したが、復帰戦の2月地元防府で見事な完全優勝を飾った。差し脚の切れに磨きがかかっている。ビッグレースはこれまで3度出場して連対は1度もないが、今大会は期待できそうだ。あっせんが止まった4月の1カ月間で心身ともにリフレッシュ。完璧な状態で大一番を迎えて、G1初勝利を目指す。

皿屋豊は昨年、3度のG1出場を経験してひと回り成長した。11月の小倉競輪祭は一次予選1で強豪相手に大金星をゲット。3連単60万円オーバーの超大穴配当を演出している。ここに来てタテ攻撃の破壊力は一段と増している。今年からは初のS級1班として奮闘。1月当地F1シリーズでは待望のS級初優勝を達成した。その後も好調を維持している。ダービーは初出場。中部の大砲として、相性のいい走路で思い切った攻めを披露する。

岡崎 記者

野口 裕史

高橋 晋也

17年に34歳でデビューした野口裕史が、今年に入ってめきめき頭角を現わしている。1月奈良F1のS級初優勝までは、周囲の予想以上に時間がかかった印象はあったが、4月前橋F1で2V目を達成。さらに、同月西武園では無傷で記念初優勝を果たした。「これからも自分のスタイルでどこまで点数を上げられるか、通用するか、やっていきたい。自分が今できる一番のパフォーマンスをして、内容を意識して走っていきたいです」。前検日に38歳のバースデーを迎える今回も、持ち前のパワーを生かした積極的なレースを見せてくれそうだ。

昨年の夏ごろから年末までやや調子を落としていた高橋晋也だが、3月ウィナーズカップで2年連続優出に成功した。G1戦線ではこれまで準決勝が最高の成績も、2月全日本選抜の二次予選を打鐘の2センターから仕掛けて2着に粘るなど、見せ場たっぷりのレースを随所で見せている。西武園記念の落車は気掛かりだが、復調して参加なら連日、強敵相手にも怖い存在だ。

勢い止まらぬ女王・児玉碧衣

ガールズケイリンコレクション

児玉 碧衣

1月に行われたトライアル戦を勝ち抜いた7名による頂上決戦。石井寛子、高木真備と当所ホームのガールズ特別レース常連の名が見られないのは残念だが、新世代を代表する存在となった久米詩、太田美穂がフレッシュな風を吹き込んでいて興味深い一戦となった。

とはいえ、本命は女王・児玉碧衣で不動だ。今年の特別レース第一弾の3月松阪でのコレクションもまくりV。その後も4月小倉MNを完全優勝して連勝を15まで伸ばしたが、〝(5月の)コレクションにはまだ仕上げられると思う〟と意欲満々で不安材料は見当たらない。タイミングを逃さぬ攻撃的な自力攻撃で敵を飲み込んで、そのまま押し切ってみせよう。

3月のコレクションでも児玉より先に仕掛けて真っ向勝負を挑んだ佐藤水菜が一番のライバルとなりそう。ナショナルチームでのハードなトーニングでダッシュ、スピードの持続力と全体的なレベルアップに成功し、今は自信を持ってレースに臨んでいる。また新たな策を練って高い壁である児玉越えを目指す。

久米、太田が大舞台でどんな走りを見せるかも楽しみ。デビュー直後から将来を嘱望された久米は昨年11月にフレッシュクイーンを制してからブレーク。一方の太田は大怪我を乗り越えてガールズ屈指の機動型として成長を遂げた。

荒牧聖未も今年の連対率80%超と抜群の安定感。キャリア一番の経験値を生かして上位進出を目指す。尾崎睦、細田愛未も同期の児玉の競走は熟知していて伏兵に止まらない。

CYCLE
JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

競輪とオートレースの売り上げの一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。